

学校全体の取り組み

授業規律について	① 指名されてから発言させる。 ② 「はい」は一回または黙って挙手をさせる。 ③ 指名されたら「はい・立つ・です」 ④ みんなに聞こえる声の大きさを発音させる。(声のものさしの活用) ⑤ 発言している人の方を向いて聞かせる。
持ち物について	① 4月に決めた物を持ってきているのかを点検する。そして、不要な物を持ってこさせない。 ② 机の横にたくさん物をかけさせない。 ③ 道具をわすれたときには報告させる。
教室掲示について	① 教務から配布された資料に準ずる。
ノート・その他	① 日付を書かせる。 ② 線を引くときは定規を使わせる。 ③ ノートの書き方を指導する。 ④ 視覚的な効果を高めるためにICT機器を活用する。 ⑤ 授業の毎時間、書く活動を取り入れる。

評語	説	明
A	設定した目標を高度に達成した。	
B	設定した目標を概ね達成した。	
C	設定した目標を達成するには、もう一歩	
D	設定した目標はほとんど未達成である。	

教科名	児童の実態	指導方法の改善と工夫	評価		
			2学期	3学期	
国語	思考力・判断力・表現力	【話す聞く】 ・話し方は上達したが、内容の工夫が十分でない。 【書く】 ・作文を書き始める前の文章構成を立てることに苦手意識をもつ児童が多い。 【推敲】 ・文章を書く力は徐々に身につけてきたが、文章を推敲する力は十分でない。 【読み取る】 ・要旨やテーマに関わる場面や言葉を見落として読み進める児童が多い。 【言語】 ・漢字の習熟に個人差が大きい。	【話す聞く】 ・話を構成する際に、自分の伝えたいことを意識して、発表メモを作ることができるようになる。 【書く】 ・例文やモデルの文を参考に構成を考え、自分の作文を書く時に役立てるようにする。 【推敲】 ・文章を見直す時間を確保し、推敲の視点を示すことで、推敲の力を高めていく。 【読み取る】 ・文章中の重要な語句や文を意識して読ませ、全体で共有する活動を設定する。 【言語】 ・毎日、漢字の練習を家庭学習の課題とする。	B	B
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	【話し合う】 ・自分の考えや感想を話したり、友達の考えを聞いたりすることはできるが、それらを関連させ、考えを深める話し合いをすることが難しい。	【話し合う】 ・考えの共通点・相違点を見出す活動を通して、考えを深めることや、新しい考えをもつことにつなげる話し合いを意図的にもたせる。また、一人の意見で話し合いを完結しないように全員が自分の考えを言えるように配慮する。	B	A
社会	思考力・判断力・表現力	【資料の読み取り】 ・資料から読み取った情報から、歴史的事実を読み取ったり、歴史的事象を関連づけたりできる児童が少ない。 【資料からの解釈・推論】 ・資料を読み取り、歴史的事実を理解しても、既習の学習と関連させることが難しい。	【資料の読み取り】 ・資料を精選し、提示する順番を工夫する。 ・資料を通して、気付いたことや分かったことを挙げさせ、担任が板書で関連付け、視覚的に確認できるようにする。 【資料からの解釈・推論】 ・授業の中で、分かったことをまとめる活動を取り入れる。 ・教室に年表を掲示し、おおまかな歴史的事象を振り返ることができる環境を作る。	A	A
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	【自分の考えをもつ】 ・得た知識や情報をもとにして、学習内容をまとめ、自分の考えを表現することを苦手としている児童が多い。	【自分の考えをもつ】 ・単元のまとめを行う際に、自分の考えを書かせることを習慣化させる。また、書いた考えを交流させることにより、様々な考えに気付かせる。	B	B
算数	思考力・判断力・表現力	【課題の理解】 ・自ら問いをもって課題を見付ける児童もいるが、進んで課題を見付け、意欲的に取り組むことに個人差がある。 【図や表の活用】 ・既習事項を想起して問題を解決する力が十分とは言えない。数直線図や表にする力は不十分で身に付いてきた児童が多い。 【ノート指導】 ・自分の考えを書こうとするが、間違えが気になり、書き出せない児童がいる。 ・補助計算をノートに小さく書いてしまい、計算ミスをする子がいる。	【課題の理解】 ・単元の系統性を指導者側が意識し、各単元ごとに既習事項を想起させていく。 ・指導者の一方的な指導で終わるのではなく、児童の気付きやつづやきを大切に、児童自らが課題を解決したと実感できるようにする。 ・教科書の用語を正確に伝え、算数の時間では算数用語を児童が使えるようにしていく。 【図や表の活用】 ・問題の解答の時には、基準量を示し、どのように変化するかを表をもとに説明する。また、表の作成を練習させ、立式に役立たせる。 【ノート指導】 ・間違っただけで消しゴムを使わず、二重線で訂正させるようにする。 ・補助計算をしっかり大きく書くように指導する。 ・定期的にノートを提出させ、授業の振り返りができるかどうかの指導をする。	B	B
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	【説明する力】 ・式や表に表したことを順序良く筋道を立てて説明することが、まだ十分ではない。	【説明する力】 ・他の人の考えを説明させる時間を授業内で作るようにする。 ・一度に全部説明させるのではなく、何人かに分けて説明させることで、負担を減らし、多くの子が説明する経験をもつことができるようにする。	B	A
理科	思考力・判断力・表現力	【観察・実験】 ・問題解決のプロセスを理解していない児童が多い。 ・課題を解決する方法を考えることが難しい。 【推論】 ・既習内容や生活体験をもとに、考察したことを説明することが難しい。 ・実験を通して何が分かったのかを考えることが難しい児童もいる。	【観察・実験】 ・課題→予想→方法→実験→結果→考察という問題解決の流れを明確にした授業を展開する。 ・これまでの実験を振り返り、必要な実験道具や条件制御を取り入れられないかを考えさせる。 【推論】 ・既習内容や生活体験を振り返らせる。 ・根拠をもって結果を予想させる。	A	A
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	【話し合う】 ・自分の考えや感想をもつことができても、それを周りに伝えることを苦手にしている児童が多い。	【話し合う】 ・課題に対する予想と結果から考えられることをノートなどにまとめ、話し合いのときに手がかりとさせる。	A	A
音楽	思考力・判断力・表現力	【音楽表現の創意工夫】 ・歌唱では音色やフレーズ、強弱に気を付けて表現できる児童が増えてきた。また、声をよく響かせて歌う児童も増えた。 ・グループでの音楽づくりや歌唱の発表も、意欲的・積極的に活動できている。曲想や歌詞の内容から工夫を考えられる児童も増え、自分の意見が出せずにいる児童もいる。 【音楽表現の技能】 ・歌唱では、目指す歌い方を意識して美しい響きで意欲的に歌唱することができた。歌詞や曲想にふさわしい表現を意識できる児童も増えてきた。 ・リコーダーについて技能の定着に個人差が見られる。 (運指、息のコントロール、タンギング) 合奏でも強弱や音色の変化できる児童が少ない。	【音楽表現の創意工夫】 ・今後鑑賞の時間を定期的に取り入れ、聴かせる際に、表現を考えたり工夫したりするポイントを絞り、主体的に考えられるようにする。強弱だけでなく、音色の追求やフレーズに注目させていく。 ・活動のねらいや方法を明確にし、一人一人が課題意識をもって主体的に学べるようにする。児童の考えや思いが表現に生かされることで、音楽に関わる楽しさや喜びを味わえるよう努める。 【音楽表現の技能】 ・卒業式に向けて歌唱では幅広い題材の曲を選び、表現の幅が広がられるように指導していく。 ・合奏の活動では、ただ合わせるだけでなく、音色を追究したり、曲想に応じて表現ができるように指導していく。	B	B
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	【伝え合う】 ・話す人の方を見て聴く態度が定着していない。 ・意見交流の場面では、発言する児童に偏りが見られることがある。	【伝え合う】 ・全体に対しての発表だけでなく、小集団の意見交流の場も設定する。全体を高めるような内容については、その都度取り上げ、共有していく。	B	B
図工	基礎的・基本的な知識・技能	【関心・意欲・態度】 ○全体的に関心・意欲が高く、積極的に制作に取り組むが、一方で課題に興味もたず集中力が長続きしない児童もいる。 【発想・構想】 ○発想が豊かで自分なりのイメージをもって表現できる児童が多い一方で、見たことや感じたことから発想したことを作品に表現することが難しく、はじめの発想から表現が広がらないまま満足してしまう児童がいる。 【創造的な技能】 ○道具や材料の使い方を自分なりに工夫できるが、個別に助言や指導を必要とする児童が数人いる。	【関心・意欲・態度】 ○全体的に関心・意欲は高いが、好きな分野・苦手な分野に偏りがある児童がいる。苦手な分野にも関心をもたせることができるように教材や授業計画を工夫していきたい。 ○集中力が持続できるように、授業の導入、組み立て方や声かけを工夫する。 【発想・構想】 ○制作途中の作品を見合い、工夫している部分を自分の作品に取り入れて発想を広げていくことができるようにする。 ○対話しながら思いを引き出し、表したいものがより明確になるような支援を心がける。 【創造的な技能】 ○基本的な用具については正しく使うことが出来るよう引き続き指導するとともに発展的な使い方ができるように指導する。 ○個別に指導が必要な児童には道具に対しても苦手意識をもつことがないようにスモールステップで1つ1つの段階を確認しながら自信をもって制作がすすめられるようにする。	B	B
	言語活動	【鑑賞】 ○自分のよいところに気付き、他者のよいところも積極的に見ようという気持ちがある。表現意図や特徴などを具体的に記述できる児童が多く、自分から思いを発表したい児童もいる。	【鑑賞】 ○単元ごとにふりかえりカードに記入し、自他の作品のよさを感じ合う活動を行ってきた。今後は感じとったよさを伝え合う活動ができるようにしていきたい。 ○すすんで思いを発表したいと思っている児童がいるので、よさを認め合う鑑賞の雰囲気作りを継続していきたい。	B	B

体育	思考力・判断力・表現力	<p>【練習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的に練習に取り組むことができる児童が多いが、自分の課題に合った練習方法を見出せない児童がいる。 <p>【作戦】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手に勝利するために不十分な動きを見つけたり、自分たちの特徴を生かした作戦を考えたりすることに課題がある。 <p>【振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> めあてに沿った振り返りができていない。 	<p>【練習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを活用し、様々な練習方法を提示する。 技のポイントを明確にし、それぞれの練習方法を取り組ませることで自分に合ったものを見つけられるようにする。 <p>【作戦】</p> <ul style="list-style-type: none"> 理想の動きの方法を言語化し、それが達成できるような練習方法を全体で話し合わせる。 <p>【振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに、めあてに沿った振り返り項目を記載する。 	A	A
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	<p>【グループ学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで学習することを楽しんでいる児童が多い。友達同士で教え合う意識も向上してきた。 	<p>【グループ学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ペア学習、グループ学習を重視し、学び合い・教え合うことで友達のよさを認め合うことができるよう指導する。 	B	A
道徳	思考力・判断力・表現力	<p>【道徳的実践力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の価値項目につながる生活体験を振り返り、考えることが難しい。 <p>【道徳的な価値理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の本音の意見が出ず、授業に深まりが見られないことがある。 	<p>【道徳的実践力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 展開後段の発問を、児童の実態に合わせて発問を工夫する。 <p>【道徳的な価値理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材の読み取りのような授業展開にするのではなく、様々な考えを交流できるような展開にする。また、補助発問や切り返しの発問で児童の考えを引き出す。 	A	A
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	<p>【表現の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えたことや感じたことを発表できていない児童もいる。 	<p>【表現の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々なグループ活動を取り入れて、まずは小グループでの交流から、全体での発表につなげていけるようにする。 	A	A
外国語活動	思考力・判断力・表現力	<p>【外国文化や外国人への理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語や文化の違いについての興味関心が高い。 	<p>【外国文化や外国人への理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、外国語の音声やリズムや、日本と外国との生活・習慣・行事などの違いを比較し、より文化についての興味や理解が深まるように促す。 	A	A
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	<p>【伝え合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手を意識した「声の大きさ」で会話したり、スピーチしたりすることが苦手な児童がいる。 既習事項を生かしながら発展的にコミュニケーションを取ることを躊躇する子もいる。 	<p>【伝え合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国語を用いて、ゲームや話し合い活動を通じてコミュニケーションを図る楽しさを多く体験できるようにする。 表現方法や言葉などを間違っても認め合う雰囲気を作る。 	A	A
総合的な学習の時間	思考力・判断力・表現力	<p>【情報を収集する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報の取捨選択や情報の活用に課題がある。インターネットなどで調べた情報を意味も分からないまま、文章に表現することがある。 <p>【表現方法の習得】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新聞やポスターで表現することには慣れてきたが、プレゼンで発表することには慣れていない。 	<p>【情報を収集する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報を集める段階と選択する段階に分けることで、意味を理解したうえで取捨選択できるようにする。 <p>【プレゼンテーションの経験】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間のまとめをプレゼンテーションソフトで作成する。 	A	A
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	<p>【発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめることに関しては工夫が見られるが、それを発表に生かすことが難しい。 	<p>【発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原稿を読むのではなく、相手を見て話せるように、メモなどを基に発表する発表練習の時間を確保する。 	B	A